

# 政策提言

(要約版)

令和6年12月

第3期若手チャレンジプロジェクト

政策調査・研究班

## 目 次

プロジェクトメンバー構成 政策調査・研究班	1
活動経過	2
提言 第1班「甌島への移住者増加に向けて」	3
提言 第2班「リサイクル率を増加させる方策について」	7
提言 第3班「子育て環境の整備について (子育てのまち薩摩川内市)」	11

プロジェクトメンバー構成

政策調査・研究班

第1班 甌島への移住者増加に向けて

所 属		氏 名
未来政策部	企画政策課	上水口 由真
保健福祉部	社会福祉課	宮崎 結里奈
経済シティセールス部	文化スポーツ課	橋口 聡仁
教育部	学校教育課	満永 風香
水道局	上水道課	中満 雄太

第2班 リサイクル率を増加させる方策について

所 属		氏 名
市民安全部	市民課	平田 朋恵
市民安全部	環境課	平中 大地
農林水産部	畜産営農課	荒田 朋哉
経済シティセールス部	経済政策課	前田 紫央李
建設部	都市整備課	三角 鴻太郎

第3班 子育て環境の整備について（子育てのまち薩摩川内市）

所 属		氏 名
未来政策部	産業人材確保・移住定住戦略室	島田 大輔
市民安全部	税務課	橋口 和美
保健福祉部	子育て支援課	大内田 周平
経済シティセールス部	観光物産課	松山 仁美

## 第3期若手チャレンジプロジェクト

### 政策調査・研究班 活動経過

令和6年	項目	内容
7月 8日(月)	辞令交付式 第1回プロジェクト会議	プロジェクト発足 班構成決定、オリエンテーション
7月23日(火)	第2回プロジェクト会議	研究テーマの決定、先進事例調査、提言の方向性を議論
8月 7日(水)	第3回プロジェクト会議	各グループの進捗状況確認、現状分析結果報告
8月22日(木)	第4回プロジェクト会議	先進事例調査の共有、中間報告に向けた提言内容の議論
9月13日(金)	第5回プロジェクト会議	研究内容精査、中間報告会準備
9月24日(火)	中間報告会	
10月11日(金)	第6回プロジェクト会議	中間報告会での質疑・意見を受けた各班の研究内容精査
10月24日(木)	第7回プロジェクト会議	最終報告会に向けた内容精査、発表資料の準備
11月 4日(月)	先進地視察	第2班(研究テーマ「リサイクル率を増加させる方策について」)が先進地(大崎町の(有)そおりサイクルセンター)を視察
11月(随時)	班別会議	班ごとに提言資料の調製
12月18日(水)	提言報告会	



# 甌島の移住者増加に向けて

～社会人直前の学生に向けた島生活体験からの移住プロジェクト～

若手チャレンジプロジェクト政策調査・研究班 中満、上水口、橋口、宮崎、満永

## テーマ決定の背景

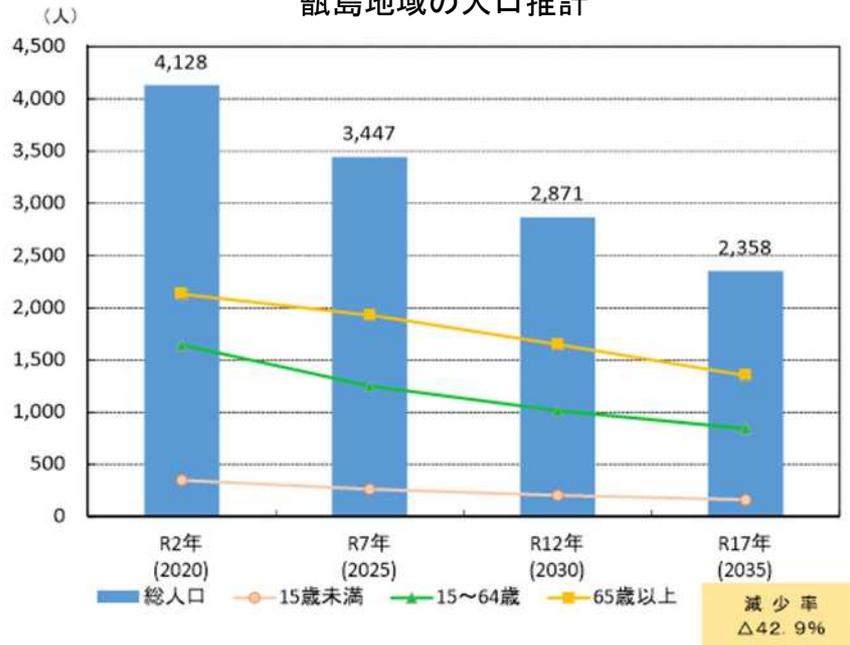
- ・ 甌島は本土以上に人口減少が進んでおり、地域の担い手不足が課題となっている。
- ・ 高校がないため、住民は中学卒業で島外へ出ていく。



地域の担い手として、若者を島へ呼び込む取り組みが必要

# 1. 現状分析（人口）

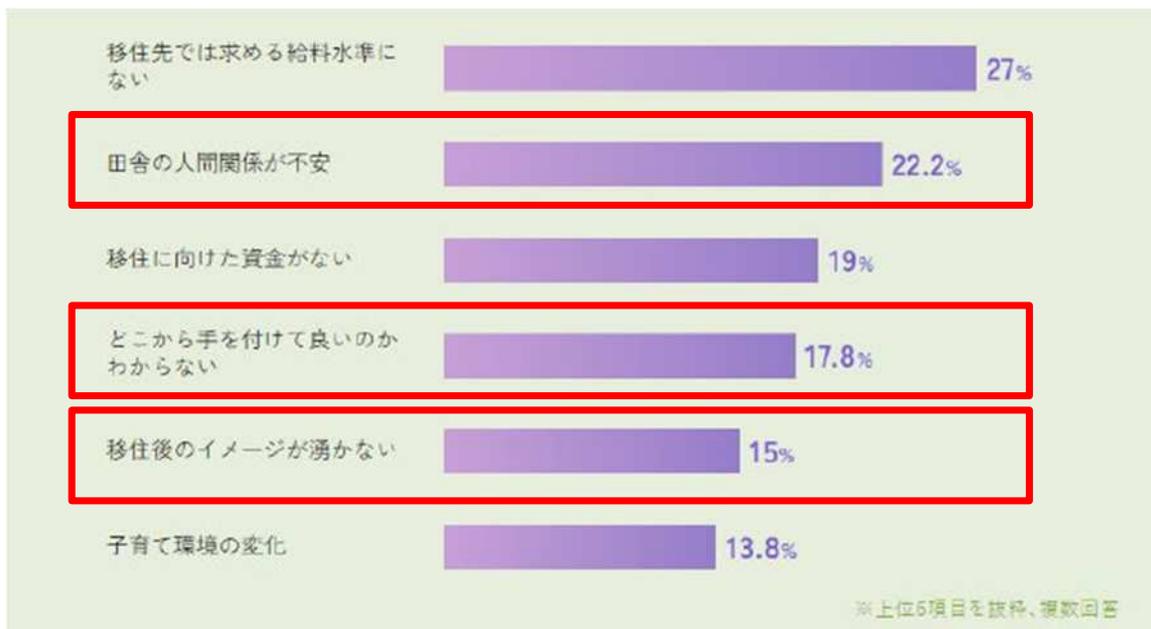
甌島地域の人口推計



第3次薩摩川内市総合計画前期基本計画（案）より

# 1. 現状分析（移住）

移住を妨げる理由



JOIN（一般社団法人移住・交流推進機構）移住に関するアンケート2023より

## 2. 対策

地域の担い手として、若者を島へ呼び込む取り組みが必要



- ・ 人口減少、高齢化が進行している
- ・ 移住先による環境の変化に対する不安が移住を妨げている



若者が甕島を気軽に訪れ、  
島民としての暮らしを体験できる仕組みをつくる

## 提言案の内容

### 大学、企業と合同で行う島生活体験インターンシップ

【対象】 県内大学、甕島内の企業

【内容】 甕島の生活を体験してもらい甕島について知ってもらう

【期間】 10日程度

【目的】 島での暮らしが具体的にイメージできるようになる。  
地元の人々との関係性を築くことができる。  
体験後に地域課題等に関するレポート提出等で学生の考えをアウトプットしてもらう。

## 3者の役割

### 市

- ・ 甌島の企業へ学生を紹介。
- ・ “ ” に人材の発掘を促す。

### 地域（甌島）

- ・ 大学生に職業体験を提供。
- ・ 人材を確保するために、働き手が必要とする要望が把握できる。

### 大学生

- ・ 甌島での体験の延長で、地域活性化を経験することで「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」を習得する。
- ・ 移住を検討している人の、生の声を届ける。

## どのようなメリットが考えられるか

### 市

- ・ 甌島の認知度向上
- ・ 移住者増加の可能性

### 地域（甌島）

- ・ 短期的に人手が増える。
- ・ 売上増加（飲食店等）

### 協力機関及び学生

- ・ 就業体験と観光をしながら単位を得ることができる。
- ・ 体験に合わせた補助を受けられる。
- ・ 学内外広報誌及びHPなどで地方自治体と提携して地域課題に取り組んでいることを宣伝できる。

## 2班

# リサイクル率を 増加させる方策について

班員：荒田 三角 平田 前田 平中

## 1 - 1 背景

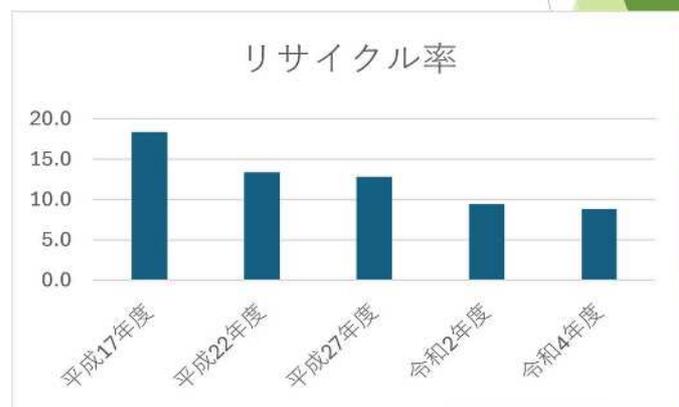
社会的要請 **リサイクル率向上**

SDGs 12

「つくる責任、つかう責任」

本市リサイクル率 **減少傾向**

平成17年度比で**約10%減**



# 1 - 2 現状分析

- ゴミ量の多くを**可燃ごみ**が占める
- 可燃ごみの組成のうち  
**草木類**（木・竹・わら）と  
**厨芥類**（生ごみ）が
  - ①可燃ごみ全体の**20%～30%**を占める
  - ②市民生活に直結した**身近なごみ**である。

可燃ごみ組成割合の年変遷



## 2. 方向性の設定

リサイクル率向上の2本柱

- ① **厨芥類（生ごみ）の排出量を減らす**  
 → 食品ロスを減らすための取組  
**前提**：薩摩川内市が現在行っている食品ロス防止の取組は「30・10運動の啓発」のみ
- ② **資源化物量を増やす**  
 → 厨芥類（生ごみ）と草木類の資源化検討  
**前提**：給食残渣や道路清掃後の草木類の問題  
 生ごみや草木がごみ量減や焼却の支障  
 草木の搬入量や嵩の大きさが焼却施設内での格納の障壁

### 3 政策提言 (1)生ごみ量を減らす取組

#### 飲食店のフードロス削減認証制度

- ・フードロス削減の取組を行う飲食店や事業者をフードロス削減認証店として認定
- ・飲食店にステッカー等を配付、HPや広報紙で飲食店を紹介
- ・認証店ではつんPayと連携した利用者特典を実施

#### 見込まれる効果

##### 食品ロスの削減

⇒飲食店での生ごみ発生の抑制、利用者の食べ残し削減

##### 飲食店・利用客参加型のHP、広報紙の作成、つんPayの利用者増

⇒市民や事業者の食品ロスに対する意識を醸成と、広報閲覧数の増加  
つんPay利用に付加価値→つんPay利用者増加

##### 「九州食べきり協力店」（鹿児島県実施）との連携、相互の登録店数増加

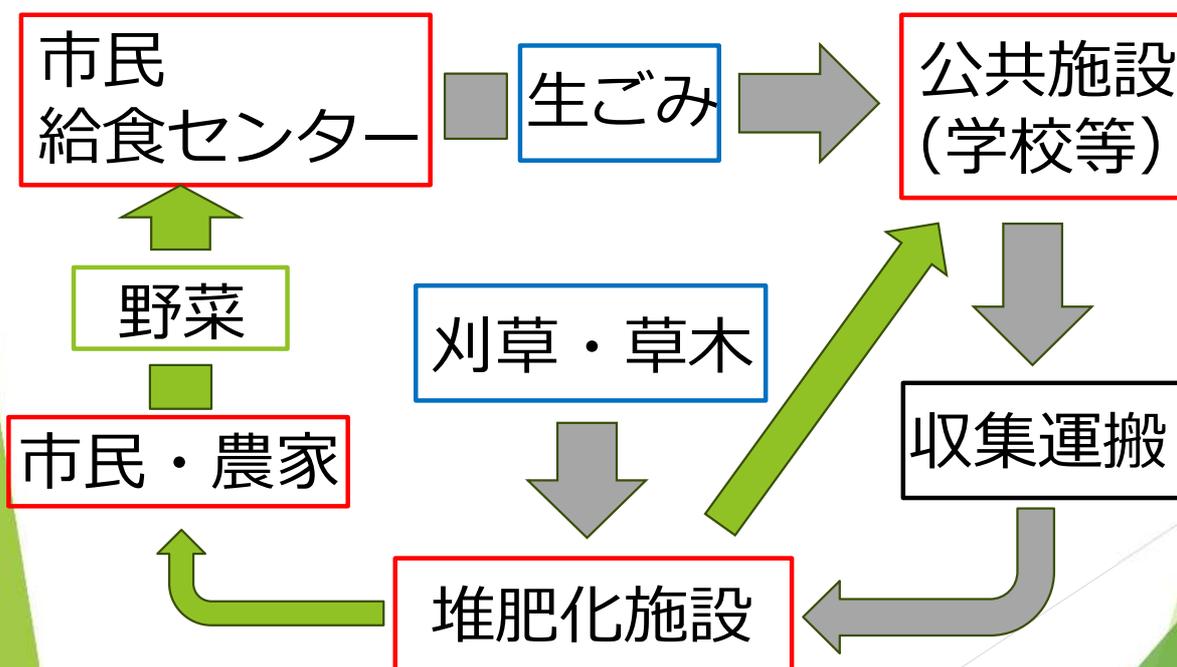
⇒薩摩川内市の登録店は0（チェーン店を除く）  
薩摩川内市と県の取組を結びつけ、参画する店舗を増加させる



### 3 政策提言 (2)資源化物量を増やす取組

#### 厨芥類・草木類の循環リサイクル

イメージ図



## フェーズ1 生ごみの収集

### 公共施設での生ごみリサイクル

- ①学校や給食センターに生ごみ処理機を配置
- ②毎週決まった曜日に「生ごみ投入リサイクル」を実施
- ③各施設から、ごみを堆肥化施設へ



## フェーズ2 草木の収集

### 堆肥化施設への持ち込み

持ち込み例

- ・行政による道路の草刈後の草木
- ・自治会による道路愛護作業後の草木
- ・個人による持ち込み

## フェーズ3 生ごみと草木を堆肥に変換

- ①草木と生ごみを破碎
- ②堆肥舎で混合
- ③定期的な堆肥切り返し（約半年後・・・）
- ④**堆肥完成！！**



## フェーズ4 堆肥を還元

- ①堆肥を市民や農家が利用
- ②堆肥を使って生産した野菜の活用
  - ・給食で提供
  - ・地域の店で販売

### 見込まれる効果

#### リサイクル率の向上

⇒川内クリーンセンターのごみ量約29%削減・施設内リサイクル率約30%向上すると試算できる。

#### 農家への堆肥使用に対するメリットの創出

⇒堆肥を使って生産した野菜をブランド化し定期的に給食で提供。

⇒農家にとって、堆肥を使用するメリットに。

#### 学生・園児へのリサイクル意識の醸成

⇒ブランド化した野菜を定期的に給食で提供したり、堆肥そのものを学校で使用

⇒学生・園児へのリサイクル教育の教材となりうる。



# 子育て環境の整備について (子育てのまち薩摩川内市)

3班：大内田、島田、橋口、松山

## 現状分析①(子育て支援制度について)

本市の子育て支援制度を類似市と比較、分析。

	薩摩川内市	始良市	明石市
市民向け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費無償化(18歳まで)</li> <li>・出産・子育て応援給付金</li> <li>・こしき子宝支援事業 ……など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費無償化(18歳まで)</li> <li>・出産子育て応援ギフト</li> <li>・ミルク助成事業 ……など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費無償化(18歳まで)</li> <li>・出産応援給付金</li> <li>・おむつ定期便 ……など</li> </ul>
産後ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業(応援券も)</li> <li>・子育て短期支援事業</li> <li>・地域子育て支援センター など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業</li> <li>・短期入所生活援助事業</li> <li>・子ども館「ちるどん」 ……など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業</li> <li>・子育て家庭ショートステイ</li> <li>・あかし子ども広場 ……など</li> </ul>
保育士向け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士就職支援金 勤務地が本土区域の場合 →1人20万円 勤務地が甌区域の場合 →1人30万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士定着支援金 採用後7年間で最大160万円</li> <li>・保育士の子供を優先的に保育所に入所可能</li> <li>・毎月の家賃負担を軽減</li> <li>・保育士の給与改善の支援</li> <li>・明石市保育士総合サポートセンターの開設</li> </ul>

➡ 支援制度ではそこまで差はないのでは？

## 現状分析②(ニーズ調査報告書分析)

本市「子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」の【薩摩川内市は子育てしやすいまちだと思いか】という質問から本市の課題を分析。

	ニーズ調査報告書	就学前児童	小学生
H31.3	「そう思う、どちらかというと思う」回答割合	70.3%	68.9%
R6.3	「そう思う、どちらかというと思う」回答割合	53.2%	51.5%

⇒ 就学前児童、小学生ともに肯定的な回答の割合が減少(H31→R6)

H31.3	「どちらとも言えない」回答割合	20.2%	23.3%
R6.3	「どちらとも言えない」回答割合	35.3%	31.4%

⇒ どちらとも言えないの回答の割合が増加(H31→R6)

➡ 新規の子育て支援制度が目立っていないのでは？

➡ どちらとも言えない ≒ 比較できない、わからないの表れではないか？

## 課題抽出

本市「子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」の【回答理由】【自由意見欄】から本市の課題を抽出。



- 家の外や屋内施設等の遊べる場所が少ない？
- 不定期の教育・保育事業の利用状況が低い？
- 保育士の給料や子どもに対する配置人数が少ない？
- 非課税世帯ばかり優遇されている？

➡ 解決策となりうる政策を提言！

## 提言① 屋内遊戯施設

**概要** • 子どもが遊ぶことができる屋内遊戯施設

**目的** • 子育て環境の充実による満足度向上

**効果** • ハード面での環境充実に伴う満足度向上

## 提言② 小学校教育環境

**概要** • トイレ洋式化推進、給食費補助

**目的** • 子育て環境の充実による満足度向上

**効果** • ハード面、ソフト面での環境充実に伴う満足度向上

## 提言③ 子育て応援スペース

**概要** • おむつ替え等が可能な子育て応援スペース

**目的** • 子育て環境の充実による市民満足度向上

**効果** • 子ども連れ施設利用者の負担軽減

## 提言④ 保育園ブランディング

**概要** • 各保育園の独自取組を情報発信支援

**目的** • 保育園の魅力認知による、子育て環境満足度向上

**効果** • 保育園の魅力PR、保育人材確保、子育て環境充実

## 提言⑤ 子育て情報連携

### 概要

- 子育て支援情報を市内保育園等の関係箇所と連携し周知

### 目的

- 子育て支援情報の効果的な発信
- 潜在的な子育て支援制度利用者の掘り出し

### 効果

- 潜在的な子育て支援制度利用者の掘り出しによる市民満足度向上

